

令和元年9月総務企画委員会 議事概要

R1.9.30 作成

日 時：令和元年9月18日（水） 18:07～19:45

会 場：建築士会会議室

出 席：

（常任理事兼委員長）芝 京子

（副委員長）山成 芳直

（委 員）伊藤 誠一、玉野 直美、沼田 有二、畠 宏好、平井 毅、村島 正章、
八重野みどり

オブザーバー：長田副会長、宮林専務理事

冒頭、過日の委員委嘱状交付式に参加できなかった委員へ、委員長より委嘱状交付。

<確認事項>

1 前回(8/21)議事録の確認 【資料1】

・異議なく了承。

<協議・報告事項>

1 「建築士の集い（活動交流会）」の開催方法について【資料2】

・委員長から8/14の支部長連絡会における各支部長の感触を報告(持ち回り開催に積極的とはいえない)。専務から、アンケートを実施し、総務企画委員会が中心となって開催意向を取りまとめる手順案を説明。

(質疑)

(委員)・「交流会」が「集い」に変わったことで、目的やコンセプトがむしろ不明確になったと感じている。連絡会で川崎支部からは「川崎はモデルケースとして取り組んだもの(他支部に対し同様に実施すべきと主張したいものではない)。1年かけて目的等をはっきりさせてほしい」との発言があった。

(委員)・直近の川崎も含めて大勢の会員が集まったが、参加者の反応がフィードバックされていない。支部の団結が強まるなどの実績があったはずだが、そうしたメリットが浮上せず、逆に疲労感ばかりが強調されている。

(委員)・横須賀での開催時の記憶では、若手会員に、疲労感がより強かったと思う。開催の実績を検証して提示し、納得を得る努力をすべきでは。

(専務)・人からどう評価されたかというよりは、自分で何を得られたかを発信してもらう必要がある。

(委員)・支部開催の1回目は小田原であったが、どんな反応だったのか。

(委員長)・正直なところ反対の声もあったが、頑張って強行した。

(委員)・小田原の頑張りが、その次の回の県庁支部開催につながったものと思う。

(委員長)・総務企画委員会が旗振り役になるという考えは、マンパワー上の制約等、依然として抵抗感がある。活性化委員会がふさわしいのではないか。

(専務)・開催頻度や時期の決定は、手続きの流れが固まってから議論してはどうか。手続きの結果によっては「開催しない」という選択肢もあると思う。

(委員)・どこの委員会が旗振り役となるべきかについては、委員会の再編も予定されていることから、今、議論する必要性は低いのではないか。

(副委員長)・むしろ今明確にしておくべきは、予算上の裏付けを、たとえば「本会予算に開催費用として30万円を計上する」というように具体的に決めておくことと考える。

(委員)・総務企画は枠組み作りを行うとしても、実施は各委員会等が分担すべきだ。

(副会長)・過日の一級製図施設見学会は、青年・女性・総務企画の他、支部からもスタッフに参加して士会横断的に実施できた。あのような形が望ましいし、可能ではないか。

(委員)・20年前の活動交流会開始当時の記憶では、活動報告会の色合いが強かった。報告の割り振りだけならば、総務企画委員会が中心となっても負担が過重とはいえない

と思うが。

(委員)・「交流会」「集い」の開催目的の一番は「退会防止」だ。そのためにどんな枠組みや内容が必要か議論すべきだ。

(委員)・いずれにしても、動かない限り前へは進めない。マンパワー不足でも頑張ってみてはどうか。

(委員)・専務の手続き案中の「アンケート」だが、一般的に「来年度の「集い」開催に手を上げますか」と投げかけるというより、過去の実績の紹介及び「こんなことも考えられる」といったイメージ喚起型の問いかけとしてどうか。

(委員)・そもそも、この手続き案を、どのような趣旨で理事会に上程するのが、見えにくい。

(委員)・枠組みを作って提示する、ということになるのではないか。なお、支部長連絡会では「どのような形の開催にせよ、本会からの応援は必須」との発言があったことを申し添える。

(委員)・たとえば、①2～3年に1回開催する②実施の場合、本会予算に30万円計上する③事務局となる者と行事の企画主体は別々でも支障ない、といった形にまとめないと上程できないのではないか。

(委員)・特定のテーマを軸に「集い」を組み立てるという考えもあると思う。たとえば、障害者スポーツをテーマとし、福祉部会が中心になって企画を詰めるとか。

(委員)・士会の既存イベントを「集い」と抱き合わせる方法もある。横須賀支部が主体となって長年続けてきたスキーツアーを抱き合わせるとか。各支部・委員会でやっている旅行会も、重複感が強い。それらを「集い」の核行事とすることも考えられないか。

(委員)・今までの議論を踏まえると、包括的な開催要綱と各年度ごとの実施要項の二本立ての枠組みを作って、理事会の承認を得ていく方法も検討してはどうか。

(専務)・そこまで精密に組み立てるべきかは議論のあるところと思うが、検討してみたい。

(副会長)・とりあえず専務案を正副常任理事会に照会してはどうか。総務企画委員会で多様な意見が出たことは紹介するとして。

2 「熱闘建築甲子園」の来年度以降の実施方法について【資料3】

・専務から、今年度の実施状況及び来年度に向けた検討課題を報告。

(質疑)

(専務)・正副会長・常任理事会、理事会には報告のみとしたい。

(委員長)・応募要請文書を学校に送付しても、生徒の目に触れるように下ろしてもらってはいないのが実情。支部の力を借りて働きかける、あるいは校長会にプッシュしてトップダウンで参加を促す方法も考えられる。

(委員)・進路指導の教員に絞って文書を送付する、訴求力のあるポスターを作成し、記載したQRコードで士会HPの募集ページへ生徒が直接アクセスすることを促す、夏休みの課題に組み込んでもらうことを働きかける、といった取り組みが必要。

(委員)・応募作品例もあわせて送付し、具体的なイメージをつかんでもらうべきだ。

・この取り組みの意義・目的を整理すべきだ。仮に「建築」の仕事のアピールを狙うとすれば、息の長い事業となることを覚悟すべきだろう。

(委員)・送付先の絞り込みには同感。私立学校法人であれば、キーパーソンは、理事長であったり事務局長であることも多い。

(委員)・本業に関して、こちらから学校回りをすることもある。その場合の相手先は、やはりキャリア指導・進路指導の教員だ。

(委員)・インターンとコンペの両方を続ける場合、コンペについては出題方法に一考を要する。テーマを絞らないと優劣の審査は困難だ。

3 令和2年新春賀詞交歓会について【資料4】

・専務から、令和2年1月28日開催とすること、正会員の参加費は4千円とするが賛助会員様には5千円とすること等の計画案を説明。

(質疑)

(委員)・長寿会員の表彰については、乾杯以前に実施した方が良いと思う。

4 建築士免許交付式の日程案について

日程案：令和2年2月23日(日曜日)

・専務から日程を2月23日と設定した旨、報告。

5 その他

建築士免許登録集中受付期間 12月6日(金)～1月11日(土)

建築士免許休日登録受付 令和2年1月11日(土)

<その他>

次回以降の委員会等について

令和元年(9月24日(火) 活性化特別委員会 18:00～(長瀬・村島・山成委員参加))

(9月26日(木) 正副・常任理事会 15:00～)

(9月21日(土) 士会連合会全国大会 函館)

(9月30日(月) 理事会 15:00～)

10月16日(水) 10月総務企画委員会 18:00～

(11月18日(月) 正副・常任理事会 15:00～)

11月20日(水) 11月総務企画委員会 18:00～

(12月3日(火) 理事会 15:00～)

12月18日(水) 12月総務企画委員会 18:00～

令和2年 1月15日(水) 1月総務企画委員会 18:00～

(1月23日(木) 正副・常任理事会 15:00～)

1月28日(火) 令和2年新春賀詞交歓会 18:00～

(2月4日(火) 理事会 15:00～)

2月19日(水) 2月総務企画委員会 18:00～

3月18日(水) 3月総務企画委員会 18:00～